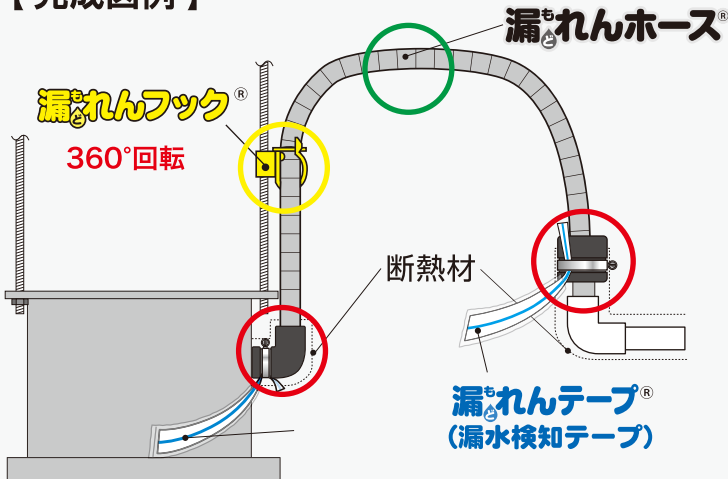


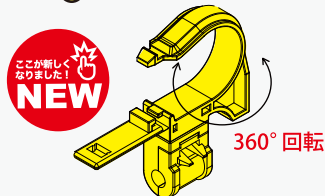
漏れんホース® 施工チェックリスト

チェック項目	判定
① ホースバンドが正しく取り付けられている	
② ゴム継手が最後まで (30mm) 差し込まれている (要マーキング)	
③ 立上げが機械の能力以上に立上げていない	
④ 漏れんフックにて1箇所以上正しく支持を行なっている	
⑤ ホース本体および接続部に無理な力がかかっていない	
⑥ 配管全体がドレン水の逆流や水溜が無い様施工されている ※特に配管側は45度以上上部より接続を推奨	
⑦ ホースバンドが正しく締め付けられている	
⑧ 漏れんテープが正しく取り付けられている	
⑨ ゴム継手部の防霧作業が正しく行われている	

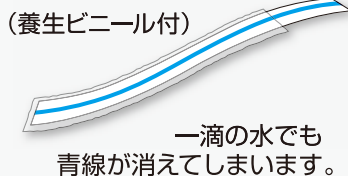
【完成図例】



漏れんフック®



漏れんテープ®



1 梱包製品 (以下の1セット品を確認して下さい。)

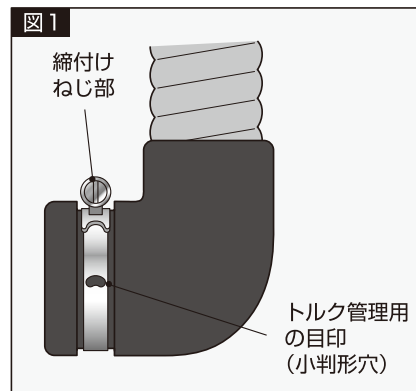
- ① 断熱フレキシブルホース (ストレート、エルボ共内部構造共通) 1本
- ② ホースバンド 20A・25A共通 (配管側 30A は別製品) 30Aの場合は1つが30A用のホースバンドになります (※赤マークが付いています)。..... 2個
- ③ 漏れんテープ (漏水検知テープ) (260(mm)×13(mm)) 2枚
- ④ 漏れんフック (全ネジボルトに取付けるホース支持部品・360°回転) 1個
- ⑤ 機器側継手部断熱材 (1000(mm)×30(mm)×6(mm)厚) 2本

2 接続工事

※ ホースの材質上、寒冷時の環境では若干硬くなりますので、無理な力を加えたり急な曲げをしてホースを破損させない様ご注意ください。

① ホースバンドの装着

- ゴム継手のホースバンド溝中央にホースバンドを装着します。
(図1 ※ホースバンドの締め付けねじ部は必ず上側として下さい。)

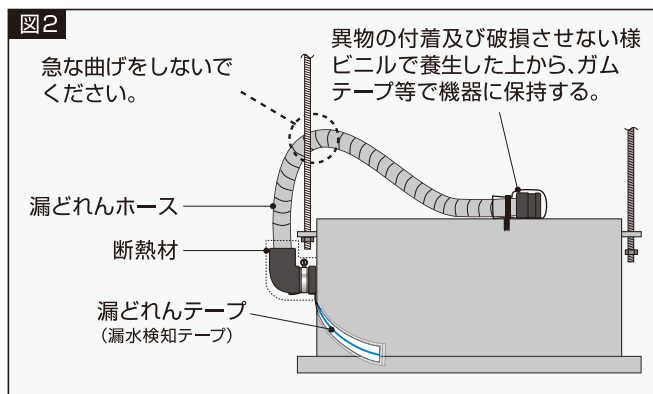


② 仮止め作業

イ、エアコンのドレン口及び配管側接続口に、本品のゴム継手を最後まで (30mm) 押し込みます。マーキングによる確認をお願い致します。

ロ、機器から断熱フレキシブルホースを立ち上げる際は、空調機メーカーの取扱説明書を参照し、機械の能力以上立上げない様に注意して下さい。

※ 機器側のみを先に取り付けた後、しばらく放置する場合は 図2 の様な固定方法で十分に養生して下さい。



八、断熱フレキシブルホースの反発力が伝わらないよう、漏どれんフックにて1箇所以上全ネジボルトに支持して下さい（完成図例参照）。

※ おさまり等の理由で漏どれんフックが使えない場合は、ホースを1箇所以上支持して下さい。

支持箇所は配管側接続口より上部として下さい。

※ 番線・インシュロック等は不可。

二、断熱フレキシブルホースの最小曲げ半径は150mm以上にて施工して下さい。

※ 継手の接続部からすぐに断熱フレキシブルホースを曲げて配管しないで下さい。

③ 本締め作業

イ、漏どれんテープを（図3）ゴム継手下側（バンド内）に青線を下にして（目視出来る様）取り付けて下さい。

ロ、ホースバンドのねじ部をドライバーで、バンドの先端がトルク管理用の目印（小判形穴）に掛かるまで締め付けて下さい。

（図3 ※目印が隠れない様に）

④ 継手部防露作業

イ、漏どれんテープの養生ビニールを断熱材に巻き込まない様に、作業中はビニールを下にずらし、作業後は戻してテープを養生して下さい。

ロ、機器側から断熱フレキシブルホース40mmまでの間、捨て貼り、及び本貼り（ハーフラップ）を施します。（図4）

ハ、配管側は、ゴム継手部20mm（バンドが隠れるまで）配管側の断熱工事にて施工して下さい。（図5）

※ 漏どれんテープは風雨等の浸入がある高湿度環境に於いて、青線が消える場合がありますので、露出部分が無い様に、養生ビニールにて保護して下さい。

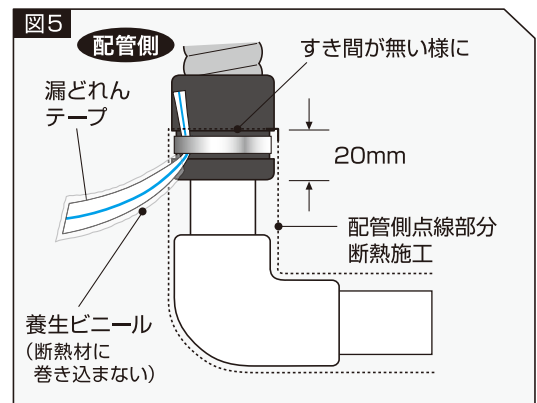
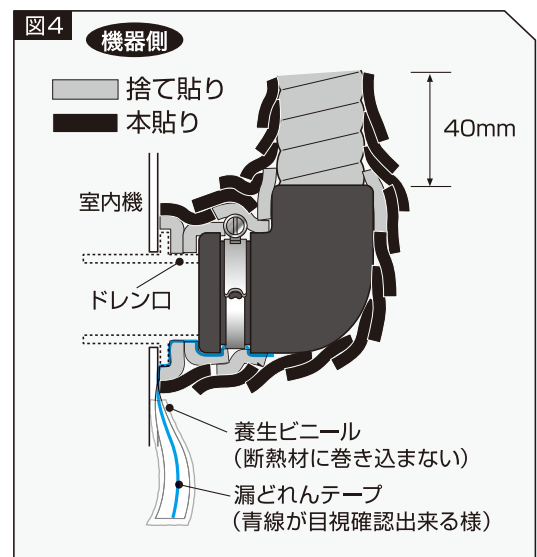
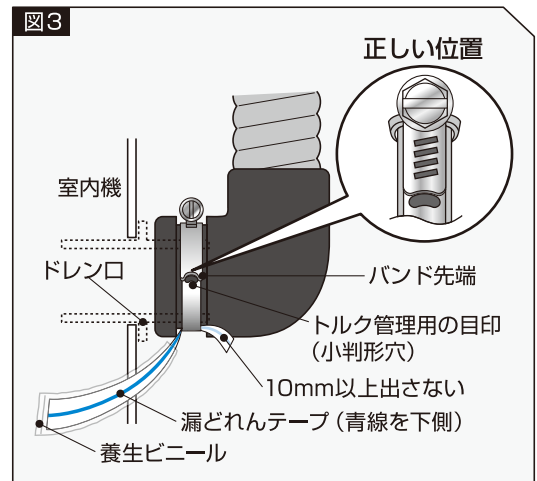
二、漏どれんテープの青線が目視確認出来る様、露出させて下さい。（図4）（図5）

⑤ ドレンアップ通水検査

イ、継手部に漏水があるとテープの青線が消えてしまいます。

ロ、通水検査開始より2時間以上経過後、テープの青線が消色していないか目視確認等を行って下さい。

ハ、漏どれんテープは通水検査用テープですから、検査後ゴム継手部断熱材等を傷つけない様に注意しテープを切断して下さい。



3 注意事項

- ① ドレンアップ装置付エアコン専用のドレンホースです。
- ② 乾燥温度30℃・相対湿度70%以上の設置環境では断熱材の増貼りをお願いします。
- ③ 接続部のゴムがきつい場合は石鹸水を使用してください。
- ④ ホースバンドはトルク管理用の目印（小判形穴）が隠れるほど過剰に締め付けて下さい。
- ⑤ 接続部等に無理な力がかからない様に施工して下さい（陸組み施工は避けて下さい）。
- ⑥ 漏どれんテープを使用しない場合は、従来通り通水検査後、断熱施工をして下さい。
- ⑦ ご不明な点が有りましたらお問い合わせ下さい。